實用讀本

尋常科

卷四

375.9
Uc8
資料室

30527
教科書文庫
3
810
31-1887
20003
02810

資料室
中央図書館

廣島大學圖書之印

廣島大學圖書之印

實用讀本卷四

第二十二課

學問

汝等。學問の仕方を知るや。學問といふ。只むづかしき文字を知り。むづかしき文章を習ふをいふよあらぢ。成長の後。各々其職業を營むに。それ〳〵の手立あれば。書を讀みて。そ

廣島大學
教
32498
圖書

の手立を習ひ覺ゆるなり。されば。六歳より十四歳の間を學齡とふへ。このならば學校よ入りて。讀み書き算用その外人間必用の事柄を習ふふり。學問い。智を開き。才を磨き。是非曲直を悟り。物の道理を辨ふることを得るものなり。物の道理を辨へざれば。萬よつけて差支多く。老てのち。安樂の身とふること難し。

されバ昔の人い。夜學の爲めよ。雪を積み。螢を集めて燈となし。まさ眠を催ま時い錐を股に刺しなどして。學問せしといふ。勉むべし勉むべし。

第二十三課

牛

牛ハ最モ有用ナル獸ニシテ。蹄ハ二ツニ分レタリ。其乳。其肉皮。角。毛。蹄ニ至ルマデ。皆人ノ用ヲナサヾルモノナシ。

牛ニハ。四ツノ胃ノ腑アリ。常ニ物ヲ食ラフニ。先ヅコレヲ第一ノ胃ノ腑ニ送リ。後第二ノ胃ノ腑ヲ經テ。再ビコレヲ口ニ返シ。嚙ミテ後。コレヲ第三。第四ノ胃ノ腑ニ送ルモノナリ。

牛ハ角アレドモ牙ナシ。其角甚ダ長ケレドモ。其性溫和ナルガ故ニ。之ヲ以テ人ヲ襲フコトナシ。

角ハ甚ダ有用ナルモノニシテ。死シタル時ハ之ヲ截リ取テ。種々ノ品物ヲ作ルベシ。之ヲ作ルニ。熱湯ニ浸セバ。甚ダ柔カニナリ。如

三書房藏

何ナル形ニモ之ヲ作ルコトヲ得ベシ。扣鈕。櫛。盃又ハ小刀。肉叉ノ柄ナドニ作リタルモノ甚ダ多シ。

其皮ハ。製シテ革ト爲シ。脂ハ蠟ト爲シ。蹄ハ膠ト爲スベシ。

第二十四課　鵞鳥

鵞鳥ハ白き鳥ようして。形略く鵞ように似たり。足ようハ蹼ありて。水上ように生活を。然れども。鵞ように比ぶれば。又能く陸地ように居るを喜ぶものなり。其性愚なるように似たれども。又決して愚ならぬ。常ように其歸路を知り。能く己

を愛する人を知り。知らざる人を見れば大
ゝ叫ぶ。其智あること。驚く可きことあり。今
吾之を語らん。
昔し或る人。一羽の鵞鳥を養ひたりしゝ。鵞
鳥ハ善く之ゝ馴れて。其人の行く處ゝ從ひ。
田野市街ハ更なり。寺ゝも從ひ行きけるゞ。
鵞鳥ハ寺ゝ入るを得ざる故。庭の草抔食ら
ひて。誦經の終るを待てり。やゞて其人寺を

出づれば。鵞鳥ハ甚だ喜び走りて。之を迎ふ
ること常なりしゝ。後ち其人盲目となりけ
るに。鵞鳥ハ之ゝ事ふること以前の如く。其衣服
を引きて。途の案内をなし。折々其寺ゝ誘ひ
行きしゝといふ。

第二十五課

猫

汝等。猫ノ足ヲ見タリシ事アリヤ。指ノ下ニ

ハ。各柔カナル坐肉アリ。
猫ハ此坐肉ニテ歩ムガ故ニ。小鳥。鼠ヲ捕ラントスル時。少シモ足音ノスルコトナシ。
坐肉ノ上ニハ。鋭キ爪アリ。常ニハ隱ルレドモ。怒ル時ハ出ヅ。口ニハ鋭キ齒アリテ。肉類ヲ嚙ミ切リ。目モ亦鋭クシテ。闇夜トイヘドモ。能ク物ヲ見ルコトヲ得。夜中鼠ヲ看張リテ。其目ニ觸ルヽ時ハ。忽跳テ之ヲ捕ラフ。

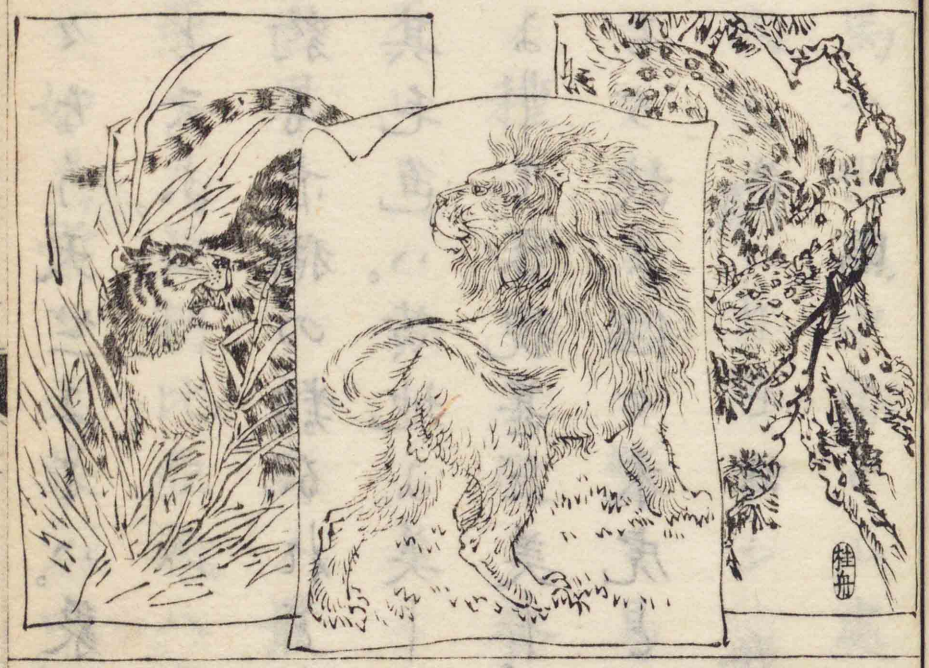
汝等。猫ノ外ニ。又猫ニ似タル獸アルヲ知レリヤ。豹。虎。獅子ハ。皆猫ノ類ナリ。
總テ猫類ノ獸ハ。啖肉獸ニシテ。野生ノ者ハ。一モ植物ヲ食ハザレドモ。久シク人家ニ住ミ馴ルヽ時ハ。或ハ之ヲ食ラフニ至ル。
汝等。此等ノ獸ニハ。顏ノ兩側ニ長キ鬚アルヲ知ラン。此鬚ハ藪叢ヲ行カントスル時ハ。先ヅ之ニテ探リ。行ク可キト否トヲ知ルニ

甚ダ用アルモノナリ。

第二十六課

獅子虎豹

獅子ハ。猫の大ふるものと思ひてよし。其足。其目。其耳。總て猫よ異なる所なし。是れ猫類の巨魁ゝして。又獸の王と云ふべし。其性猛勇にして。足甚だ強し。常よ小獸を捕へて食らふ。捕へんとする時ハ。恐しき聲を揚げて



叫ぶものなり。牝獅子ハ。牡獅子より稍々小ゝして鬣ふし。天竺等の熱國よ住へり。

虎も猫の一類なり。其性亦猛くして。能く水をも泳げり。居る處ハ朝鮮。支那。天竺等の國

々なり。天竺ハ。象ハ乘り。よく之を獵を
と云ふ。
豹も亦猫の類なれども。虎の如く大ならず。
其毛色ハ。黄地ハ美しき黑點あり。其性敏捷
ハ。て。容貌甚だ美し。木ハ登ること巧みな
るが故ハ。往々木虎と云ふ。

第二十七課

馬

馬ハ世界中居ザル處ナシ。其性順良ニシテ。
人ニ馴レヤスシ。我ガ國ノ馬ハ。大抵小
サクシテ物ニ驚キ易シ。近來外國ヨリ良馬
ノ種ヲトリテ之ヲ養ヒ。漸ク良種ニ赴クニ
至レリ。
世界ノ中ニテ。馬ノ最モ俊逸ナルハ亞剌比
亞ナリ。亞剌比亞人ハ馬ヲ愛スルコト家族
ノ如ク。常ニ天幕ノ中ニ養ヒ。手ニテ其餌ヲ

三書房藏

與へ。小兒ト共ニ寢ニ就カシムトイフ。

馬ノ好デ食ラフ物ハ。藁。胡蘿蔔。蕪。玉蜀黍。大麥。燕麥。糠。豆類ナリ。玉蜀黍ハ。耕馬役馬ニ宜シク。豆類ハ走馬ニヨロシ。

馬ニハ堅キ蹄アリ。之ニ蹄鐵ヲ打ツ。凡ソ獸類ノ足。多クハ柔カナルニ。馬ノ蹄ノ堅キハ。抑〻馬ノ有用ナル所ナリ。若シ柔カナランニハ。砂石ヲ踏メバ。忽チ傷ツキテ。人ノ用ニ立ツベカラズ。其鐵蹄ヲ打ツハ。更ニ其足ヲ保護スルナリ。

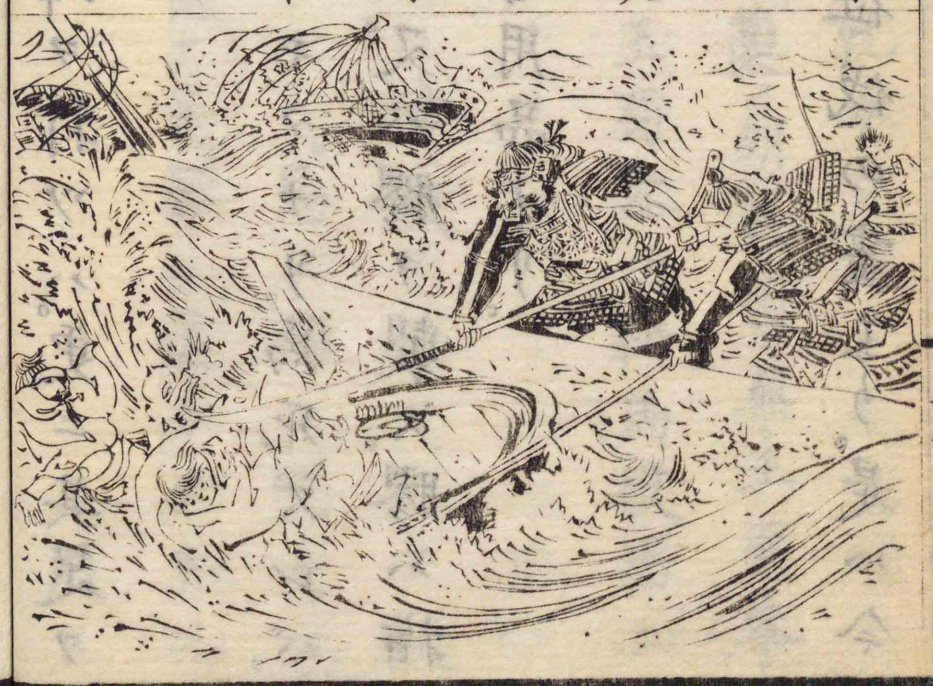
馬ノ蹄ハ。又有用ナルモノナリ。馬死スレバ。之ヲ取リテ。櫛簪ノ類。又ハ膠ヲ製ス。膠ハ指物師。及ビ家具師ノ有用品ナリ。

第二十八課

軍

次ニ畫ハ。蒙古征伐の畫なり。是ハ今

より六百年の前の事
なり。蒙古といへる外
國より。日本へ攻入り。
我が九州の地を仇し
たる折。時の執權北條
時宗。今の相模の鎌倉
に在りて。兵を遣はし
防ぎ戰はしむ。



其頃。蒙古は既に支那の全國を攻め滅し。勢
に任せ。我が國をも一呑にせんとて。三萬人
の兵士を大船數艘に打乘せ。攻め來たりし
が。我が兵。日頃の武勇を振ひて。戰ひれば。
敵も少しくひるみて。沖中へ退きたり
此時。大風俄に起りて。波は山より猶高く。敵
船大に困む處を。我が兵。得たりと攻めける
にぞ。敵船何ぞはたまるべき。三萬人の兵士。

悉く波の底ゟ溺れ死し。生き残りたるハ。纔に三人ばかりとなり。

第二十九課　熊

汝等。熊ハ毛色黒クシテ。歩ム時ハ。人ノ如ク。後足ニテ立ツモノナルヲ知ラン。此物我ガ國ニテハ。北海道ノ山中ニ多シ。土人ハ矢ニテ取リ。又鐵砲ニテモ取ル。故ニ人ヲ見レバ。怖レテ逃ゲ去レドモ。子ヲ生ム時ハ。子ヲ思ヒテ。人ヲモ怖ルヽコトナシ。此時熊ニ逢ヘバ。忽其害ニ遇フトイフ熊ハ大抵黒キヲ常トスレドモ。北極地方ニハ。白熊トテ白キモノアリ。魚類。海豹。鯨ノ兒抔ヲ食トシ。足ニハ長キ毛アリテ。氷ノ上ヲ走ルコト頗ル自在ナリ。又鋭キ爪アリテ。氷山トテ氷ノ山ニモ登ル。其登リタル者。氷山

ト共ニ海中ニ流レ出デ。往々外國ニ漂着スルコトアリト云フ。

熊ノ皮ハ。我國ニテハ。敷物トスルニ過ギザレドモ。寒國ニテハ甚ダ之ヲ珍重シ。之ニテ帽子。手袋等ヲ製シ。或ハ粗キ織物トシ。或ハ革ニ用フトイフ。

第三十課

破きたる茶椀

炙ヨ破れたる茶椀あり。元ハ無疵ヨシて。美しき茶椀なりしが。子供の手荒く扱ひたりしより。斯くハ破れたるなり。凡そ物ハ丁寧ヨ用ふれバ永く持ち。手荒く用ふれバ忽チヨ損ぜるものなり。

さて。此茶椀を修復せんにハ。燒継屋へ渡セベし。燒継屋へ渡せバ。藥ヨて之を継ぎ合せ。茶椀の用ハなせども。継目ありて醜く。其上

音色さへ惡しく。疵物とありたる故。客用よハふしがさし。さきバ始めよ心を用ひて。疵物とふさぬやうせざれバ。後よ悔ゆとも及ばぬものなり。人も亦此くの如し。一たび惡しき業を行へバ。一生の疵となり。破れたる茶椀の音色惡しきが如く。其身の風聞惡しくなりて。世よも疏まれ。後悔をることとありと知るべし。

第三十一課

海草

海草トハ。海ニ生ズル草ニシテ。其種類甚ダ多シ。其大サト生ズル所ノ場所モ。亦一樣ナ

ラズ。或ハ深キ海ニ限リテ生ズルモノアリ。或ハ淺キ入海ヲ擇デ生ズルモノアリ。又或ハ濱邊ニ生ジテ。潮ノ差引ニ隨ヒ。水ニ浸リ。日ニ乾クコト。常無キモノアリ。

海草ハ。大抵黑ガチニテ。鳶色綠色ナルガ多シ。其中美シクシテ透キ通レルモアリ。何レモ世ニ益アルモノニシテ。多クハ人ノ食用トナリ。或ハ糊ニ代ヘテ用フルモノモアリ。又海草ノ中ニハ。採テ肥料ト爲スベキモノ多ク。乾シテ薪ニ代フベキモノアリ。

西洋ニテハ。近頃マデ。多クノ海草ヲ焚キテ灰ヲ取リ。之ニテ曹達ト云ヘル藥品ヲ製シタリシガ。今日ニ至リテハ。海ノ鹽ヨリ之ヲ取ルガ故ニ。此事終ニ止ミタリシトゾ。

汝等能ク「ガラス」ヲ知レリ。彼ノ「ガラス」ハ。初メ西洋ノ人濱邊ニ於テ乾キタル海草ヲ焚ケ

ル時。偶〻發明シタリシモノト云ヘリ。

第三十二課

雪

今ハ冬ニシテ。北風頗る寒く。庭の草木ハ花絶ヘて。地上ハ一面ニ雪となれり。子供ハ歡びて雪球を作り。互ニ投げ合ひ遊ぶもまた面白き冬の戯なり。汝等。此繪を看よ。子供等相集ひて。大なる雪球を轉ずるなり。初めハ之を作る時ハ。其大さ僅ニ毬の如くなりしが。今ハ大なる球となり。殆ど動かし得ぬ。總べて何事をなすにも。始より大なることハ。なしがたき者なり。

汝等知るや否や。世界の内ハ。年中雪降りて。常ハ冷めたき國あり。此等の國ハ住む人ハ。皆毛皮の厚き衣服を着て。寒さを凌ぐとなり。又國ハよりてハ。年中雪降る事なく。常ハ夏の氣候の如き處あり。

我が日本ハ。一年の内。四季ハ分れて。雪の降り積む冬もあり。花の盛りの春もあり。木蔭戀しき夏もあり。紅葉散敷く秋もあり。目前サキ變りて面白し。

第三十三課

正直

人ハ正直ニシテ。物事ニ偽ナク不義ノ行ヲセザルヲ第一トス。正直ナラザレバ。人ニ信ゼラレズ。信ゼラレザレバ。其身立チ難シ。然ルニ。人往々コレヲ知ラズ。只眼前ノ利欲ニ迷ヒテ。正直ナラザル者アリ。商業ノ上ニ

ハ屢アルコトナリ、昔或國ニテ酢ヲ多ク造リ。其國第一ノ產物ナリシガ。後ニ至リテ。竊ニ惡キ品ヲ交ジヘ。買主ノ目ヲ眩マシタレバ。忽チ評判ヲ失ヒテ。隣國ニテハコレヲ買入レザルユヱ。俄ニ得意ニ離レテ。其國頗ル疲弊シタリト云フ。近頃又我ガ横濱ニテモ。性惡シキ蠶卵紙ヲ賣リ。又交ゼ物アル茶ヲ賣リシヨリ。一時外國ノ信用ヲ失ヒ。交易ノ衰微ヲ來タセシコトアリ。是正直ナラズシテ。眼前ノ小利ヲ謀リ。後日ノ大損ヲ爲シタル例ナリ。故ニ後日ノ繁昌ヲ思ハバ。假初ニモ斯ル不義ヲセズ。正直ヲ第一トスベシ。

第三十四課

七面鳥

七面鳥ハ。もと野生の鳥ぞりしが。人の畜養

を得て。今日は家畜とおきり。元來亞米利加の産にて。今も北亞米利加の山中には尚ほ群をなせりといふ。其野生なるは。人を怖きて飛び走りて晝は之に近づくを得ず。夜間は

樹上に宿りて。炮聲をも怖るゝことなし。故に獵師は夜之を捕ふとぃふ。

此鳥往々肉冠を伸ばし。半は翼を開きて。其尾を輪の如くし。大に威を張るものあり。其雌は怯にして穩和なれども。雄は頑にして怒り易く。或は牝鷄に挑み。雄雞と鬪ひ。人にも敵をることあり。頸より上は毛ふくして。爛れたる皮肉の如く。其色赤。青。白。紫。灰色。

を帶び。時々變じて定まらず。七面鳥とハ此故なり。又嘴の上より尖れる肉冠あり。側より垂れて隨時ハ伸縮す。

第三十五課　指

指ハ誰ニモ皆五本アリ。其名ハ親指。人示指。中指。藥指。子指ナリ。此五本ノ内。親指人示指ハ。尤モ大切ニテ。子指ノ如キハ。形モ小サケレバ。最モ不用ナルガ如シ。然レドモ。子指ハ必シモ不用ニシテ。親指ノミ大切ナルニアラズ。五本揃ヒテコソ。手ノ用ヲナスモノナレバ。一ツ缺テモ不自由ナリ。

今針。楊枝ノ如キ細キ物ヲ用フルニハ。サマデ子指ノ用ハナケレドモ。大ナル物ヲ擧ゲナドスルニハ。五本ノ力ヲ一ツニ合セザレバ叶フマジ。今不用ノ如キ子指ニ傷受ケ。腫物

ナド出來タランニハ。外ノ四本ノ難澀一方ナラヌモノナリ。サレバ五本共常ニ息災ニテ。力ヲ合セザレバ。大ナル事ハ一ツトシテ成スコトナカルベシ。

人ノ兄弟。一家親類ノ中良キト。中惡キトノ損得ハ。此五本ノ指ニヨク似タルモノナリ。能々考フベシ。

第三十六課

職業

田舍ヨ至れバ。田畑を耕し。穀物野菜を作る人を見んごきを農夫といひ。其業を農業といふ。農夫ハ耕作の外ヨ。又牛馬豚羊鷄の類を畜ふものなり。此等の生き物を。家畜と云ひ。家畜を飼ふを牧畜と云ふ。

山ヨ入れバ。木を伐り枝を拂ひ。之を鋸き割りて。材木とする人あり。此業を樵業と云ふ。

又金、銀、銅、鐵、鉛、石炭を掘る者あり。この業を鑛業といふ。

海邊ゟ至れバ。網を張り。舟を泛べて。魚類を捕る者あり。此業を漁業と云ふ。又町ゟ至れば。陶器漆器。其外日用の器を作る者あり。此業を工業と云ひ。其人を職人と云ふ。

右の如く。種々の職業ありて。其人々の作り〻物ハ。皆今日必用の品なれども。一々其人ゟ就て。之を買ふ時ハ。甚ど不便なる事あり。故に此等の品を仕入れ置きて。人ゟ賣る者あり。これを商人といひ。此業を商業と云ふ。商業ハ多く繁華の土地ゟ行はるゝ者なり。

第三十七課

栗

栗ハ。六月ノ頃。白キ鼠ノ尾ノ如キ花咲キ。花散リテ。小サナル刺栗トナル。刺栗次第ニ生

長シテ。八九月ノ頃ニ至レバ。子供ノ掌ノ大サトナル。其刺初ハ柔ナレドモ生長シタルハ。剛クシテ針ノ如シ。栗ノ實ハ。此刺皮ノ内ニアルモノナリ。汝等。栗ヲ採リ食ハントスルカ。栗ヲ食ハンニハ。先ヅ此刺皮ヲムカザルベカラズ。之ヲムカンニハ。屢ク指ヲ刺サレ。血出デヽ甚ダ疼キコトアリ。此疼サヲ堪ヘテ剝ケバ。中ヨリ其實二ツ三ツ出ヅ。實ノ皮ヲムクモ。亦骨ノ折ルヽ者ナリ。此骨折ヲ忍ビテ。次ニ又澀皮ヲムカザレバ。旨キ肉ハ口ニ入リ難シ。

額ニ汗セザレバ。美味ヲ得ズト云ヘル格言。

是ニテ悟ルベシ。

第三十八課

頭の振り方

汝等。頭を振るゝ心を用ふべき事あり。縱ゝ振るハ。承知したる意味あり。横に振るハ。不承知の意味あり。友と交るゝハ。よく此振り方を知るべし。

友達ありて。ともは學校を休ミて心のまゝに遊ぶべんと曰いゞ。此時横ゝ振るべし。外の友をいざめんと曰いゞ。亦横に振れ。人の庭ゝ入り。或ハ畑ゝ入りて。果なゝど取らんと曰はゞ。亦横ゝ振れ。木に登り。水に入りて遊ばんと曰いゞ。亦横ゝ振き。

凡て友達の誘ハ。父母の許なくてハ。縱に振ることとそろしと知るべし。又友達の中ゝて。無理なる事をいひあけ。汝ゝあやまれと曰

ハヾ。縱ニ振り。丁寧ニあやまるべし。又友達來りて。共に本を浚もんと言はゞ。縱に振るべし。時間少し後れたる故。いそぎて學校ニ行かんと曰ハヾ。縱ニ振るべし。

此外。父母。教師。凡て目上の人の言ひ付ニハ。必ず縱ニ振りてよろしと心得べし。

第三十九課

魚

汝等。魚ノ名ヲ幾ツ知リタル。思フニ多クハ知ラザルベシ。

汝等ノ知ル所ハ。目高。金魚。鯉。鮒。或ハ鰻。鰌。ノ類ナルベシ。コレ等ハ。皆池。沼。川ノ中ニ居ル魚ナリ。海邊ニ近ク住メル子供ハ。猶海魚ノ名ヲ知ルナルベシ。

海魚ニハ。鯛。平目。鰹。鮪。鰈ノ類アリ。凡テ魚ニハ鰭ト尾トアリテ。コレニテ水ヲ搔キ泳グ

モノナリ。魚ニ鱗有ルト無キトアリ。鱗ハ薄キ爪ノ如キモノナリ。鯉鮒ノ體ニハ。鱗一面ニアレドモ。鰹鮪鰻ノ體ニハ鱗ナシ。魚ハ水ノ中ニ住メドモ。人ハ水ノ中ニ住ムコト能ハズ。

第四十課

海獸

水の中ゝ住む者ハ。只魚のみゝあらず。獸も水の中に住む者多し。然れども。魚の如く恒ゝ水中ゝハ居らず。陸ゝも上るものなり。汝等。水牛の角ゝて作りたる印。或ハ櫛を見しことあるべし。この水牛ハ。我國ゝハ居ら

ざれども。外國ニハ居る處あり。これハ水の中ニ住む牛なり。

我國ニて。水に住む獸ハ。河獺、海獺、海豹なり。海豹海獺ハ。北海道の寒き海中ニ住めり。此圖ハ。北海道ニて海獺と海豹とを捕る所なり。汝等これを捕りて。何ニ用ふと思へる。海獺の皮ハ。帽子ニ作り。又衣服ニ作る。其價頗る貴きものなり。海豹ハ長き牙あり。白く美しきゆゑ故ニ。象牙の代ニ用ひ。箸。根付。扣鈕。其外種々の器に作るべし。

第四十一課

朝晩

汝等。毎夕日輪ノヲサマルヲ知ラン。日輪ノヲサマルトキハ。光次第ニ薄ラギテ。後ニハカスカナル光トナル。之ヲ黄昏トイフ。ソレヨリ夜トナリ。人皆寐所ニ入ル。

翌朝早ク起キテ。日ノ出ヅルヲ待テバ。東ノ方ニ光アリテ。薄ク白ラメルヲ見ン。ソノ光次第ニ白クナル時ヲ曉トイヒ。又夜明トモイフ。

ソレヨリ間モナク。空ハ紅（クレナヰ）ノ色トナリ。輕キ雲ハ濃紅。或ハ薄桃トナル。是レ曙ナリ。忽ニシテ日輪地上ニ出ヅレバ。其光滿天ニ輝キテ。人ノ眠ヲ喚ビ起スニ似タリ。

此時。雀ハ已ニ起キ。人モ其業ニ就ク用意ヲナセリ。又子供ハ早ク起キテ。曙ヲ喜ブコト恰モ鳥ノ如シ。然レドモ。中ニハ喜バズシテ。日輪窗ヲ照セバ。却テ夜着ノ中ニ隱ル、者アリ。是怠惰ニシテ起クベキ時ニ起キズ。人ニ起サレンハ。面目ナキ故ナルベシ。思フニ汝等ノ中ニハ。斯ル者一人モナカルベシ。

第四十二課

時間

日の昇りてより。日の入るまでを晝といひ。日の入りてより。日の昇るまでを夜といふ。夜と晝とを合せて一日といふ。一日を四つよ分ちて朝。晩。日中。夜中とすれども。其間長過ぐるゞ故よ。之を二十四時よ分つ。夜中を十二時とし。それより後ハ。一時二時と算へて。又十二時よ至るを。日中とす。日中より後も。前の如く算へて。再び十二時よ至る。是れ即ち夜中あり。

此くの如く。一日の中よ。十二時づゝ。二度ありて。紛れ易きゞ故よ。午前午後の字を用ふ。夜半後にハ午前何時といひ。日中後よハ午後何時といふあり。

第四十三課

狐ト樵

アル日。狐獵人ニ遭ヒ。樵小屋ノ邊ヘ逃ゲ來テ。樵ノ木ヲ鋸ケルヲ見。姑ク匿マヒタマヘト請ヒケレバ。樵ハ彼處ヘトテ其小屋ヲ見カヘルマヽ。狐ハ早クモ其意ヲサトリ。喜デ其内ニ隱レタリ。

ヤガテ獵人追ヒ來リテ。狐ハ來ズヤト問ヘバ。樵ハ否ト云ヒツヽ。小屋ノ方ヲ指サシ知ラスニ。其人悟ラズシテ走セ行キケリ。

狐ハ獵人ノ影見エザルヲ見テ。アナ。ウレシトテ走リ行クヲ。樵咎メテ。何トテ一禮ヲモ述ベズシテ歸ルト云ヘバ。狐フリカヘリテ。汝ガ指口の如ク深切ナラバ。爭デカ禮セズ

シテ去ルベキト云ヒシトゾ。

口ノ上善シトテ。爲ルコト惡ケレバ。卽心ノアシキナリ。人ハ言葉ト行ト。共ニ善キヲヨシトス。行。言葉ニ違フハ不幸ヲ招ク基ト知ルベシ。

第四十四課

日ノ影

日輪ハ日中ニ至るまでハ。次第ニ高く昇り。其より日暮ニ至るまでハ。次第ニ低く下るなり。故ニ日輪の高さを考ふれバ。時刻を知ることを得べし。

又物の影ハ。日中ニ至るまで。次第ニ短くなり。日中よりハ次第ニ長くなるものなり。されバ。一本の杖を立てゝ。終日其影を吟味し。時刻時刻ニ。其影ニ印を付くべし。但し毎年三月廿一日と。九月廿三日とハ。晝夜長短

なく。共は十二時ふるゞ故は。此日は例したるものと考ふべし。

朝と日中と日暮とは。其影の終る所は印を付くれば。翌日は林の蔭を見ても。粗ゞ其時刻を知ることを得べし。故は杖の影は。時刻を知るの用ともふるべし。

實用讀本巻四終

明治二十年二月二十一日 版權免許
同 二十年三月 出版
同 年九月三日 訂正再版御届

編輯人 千葉縣平民 内田嘉一 本郷區駒込西片町十番地
出版人 埼玉縣平民 長島爲一郎 北足立郡鴻巣宿百廿五番地
同 東京府平民 牧野善兵衛 日本橋區通四丁目七番地
同 東京府平民 吉川半七 京橋區南傳馬町一丁目十二番地